

シナリオ秘密保全法

原子力保安院院長	ナカモト
同上司	エチゴ
同職員	イシハラ
イシハラの妻	トモコ
新聞記者	シマ
警察官	タナカ

ナレーション

今、大井戸原子力発電所の再稼働をめぐって、反対の世論が盛り上がっている。

ところが、今日、大井戸原発の敷地内に大きな活断層の存在の可能性を示すデータが発見され、それに基づき耐震性についてシミュレーションしたところ、原子炉が倒壊するかもしれないことがわかった。

第1幕 原子力保安院 院長室

エチゴが、院長ナカモトの部屋へものすごい形相で慌てて入ってくる。

エチゴ：一大事、一大事

ナカモト：うーん。怪しい奴、名を名乗れ

エチゴ：院長、お見忘れでしょうか。大井戸原発担当のエチゴにござります。

ナカモト：おお、エチゴであったか。なんじゃ、鬼の面なぞ被りおって、面をとれ、面を

エチゴ：あまりの一大事に顔がゆがんでおります。

ナカモト：一大事とは、なんじゃ、なんじゃ。どうせろくでもないことにうろたえているのであろう。はよう言え。

エチゴ：申し上げます。もーしあげます。

大井戸原発の地下に活断層があることが発見されました。それをもとにシミュレーションをしたところ、震度6強で大井戸原発はもたないかもしれないと

ナカモト：もてないのは、お前のごとじゃが、もたないとは何のごとじゃ

エチゴ：大きな地震がきたら大井戸原発が潰れてしまうかもしれないということでござります。

ナカモト：な、なんというた。なんというた。大井戸原発が、つつぶれる。つぶれる。

つぶれる。たおれる、こわれる、とうかいする。ひしゃげる、くずれる、ほうかいするー。

英語でいえば、ビー、クラッシュトー

エチゴ：院長、うろたえめさるな。当方には、とっとうほうには、HHH と TBH がござりまする。

ナカモト：HHH とか TBH とか、なにやら、つやっぱい名前じゃの。なんじゃ。南蛮渡来の精力剤かな。

エチゴ：HHHは、秘密保全法と申す法度にごぞいます。

ナカモト：ほー、して、TBHとは。

エチゴ：とくべつひみつ。略して、TBH。

行政機関の長がどうしても隠したいと思う事項を特別秘密に指定すれば、もう安心。これをもたらした者はもちろん、もらすように働きかけた者も10年以下の懲役という非常に重いつみとがを科されるのでござる。しかも、特別秘密に指定するかどうかは、あなた様のお心しだい。

ナカモト：あいわかった。大井戸原発に限らず、全ての原発地下の活断層のデータ、それから、それに基づく原子炉の耐震シミュレーションのデータは、全て特別秘密といたそう。

これで、誰にも邪魔されずに大井戸原発を再稼働できるわ。

エチゴ：それから、もう一つ、直接の担当者のイシハラとその家族の身边は十分に調査するのがよろしいかと。秘密保全法では、こんなこともできまする。

ナカモト：おう、そうか、そうか。それにしても、エチゴ、お前も悪よのう。

エチゴ：いえいえ、ナカモト様ほどでも。

ふあはっ、はっ、はー。

ナレーション

こうして、原子力保安院院長ナカモトは、全ての原発地下の活断層のデータ、それから、それに基づく原子炉の耐震シミュレーションのデータを特別秘密と指定した。

第2幕 イシハラの自宅

イシハラ、重い足取りで帰ってくる。

トモコ あなた、どうしたの。元気ないわね。会社でなんかあったの。

イシハラ トモちゃん。大変なだよう。

トモコ 何が大変なのよ。

イシハラ それが、僕が担当している大井戸原発なんだけど、調査したら、活断層がみつかったちゃって、シミュレーションをしたら、かなりの確率で震度6強程度で原子炉の倒壊もありうるんだ。

トモコ そんな大事なこと、なんで、一般人が知らないわけ

イシハラ そうなんだよ。うちの上司、エチゴさんって言うんだけど、エチゴさんは、これが分かったら、大混乱が発生して、大変なことになるから完全に分からないようにするって言ってるんだよ。

トモコ わからなくするってどうするの？

イシハラ 原子炉のある土地の活断層に関するデータやそれに基づくシミュレーションデ

一タは、全部特別秘密に指定されたんだよ。特別秘密に指定されたら、これを漏らしたりしたら、最長10年の懲役になっちゃうんだよ。僕、おしゃべりだろう。もし、しゃべったら、刑務所に言って、トモちゃんとも会えなくなるよう。えーん、えーん。

トモコ ひどい法律ね。それで、特別秘密にするには、どうしたら、いいのよ。

イシハラ 行政機関の長が、特別秘密にしまーすと言ったらなっちゃうんだ。

トモコ それって最悪。隠したい情報は、全て特別秘密にすればいいじゃん。私たちが馬鹿にしてるよ。

そう言えば、大学時代の同じクラスだったシマくん憶えているでしょう。立読新聞で記者やってる。今日、彼から電話があって、ヒロシに会いたって。なんか、教えて欲しいことがあるんだって。

イシハラ えー。なんだろう、もしかして、このことじゃないだろうな。どうしよう、どうしよう。僕、おしゃべりだから。どうしよう、トモちゃーん

ナレーション

イシハラは、仕方なく、シマに会うことにする。

第3幕 ホテルのロビー

シマ よ、久しぶり。元気にしてたかい

イシハラ 元気じゃないよ。

シマ お前、保安院で原子炉の調査やってるんだろう。大井戸原発って、本当に大丈夫なの。

イシハラ 大丈夫って、何が

シマ 例えば、敷地に活断層があるとか。

イシハラ え、何で知ってるの。

シマ え、やっぱりそうなの。それで、シミュレーションとかしたの？

イシハラ え、何で知ってるの？

シマ やっぱりそうか。それで、結果は、どうなの。やっぱ、地震来たらこわれちゃうの。

イシハラ もう、その手には乗らないよ。震度6強でつぶれるなんて、口が裂けても言えないよ。

シマ やっぱりそうだったのか。ありがとう。これ、大スクープだよ。今度メシおごるよ。

イシハラ いいけどさ、これって、特別秘密に指定されてるんだ。

シマ え、特別秘密。ということは今のって、漏えい、僕って、教唆。えっ、えっ

今の聞かなかったことにする。聞かなかったことにするから、誰にも言わないで。記事にもしないから。約束するよー。

警察官が突然、出てくる。

警察官 アウト！お二人とも、秘密保全法違反の現行犯で逮捕します。

イシハラ 僕って、無罪ですよ。うっかり漏らしたんだから処罰されませんよね

警察官 秘密保全法では、過失犯も処罰されるんです。

イシハラ えーそんない

シマ 僕の行為は、なにも処罰されないよね。僕は、たんに記者として取材をしていたんだから。犯罪行為をしていたんじゃないから、特定取得行為にはならないよね。

警察官 あなた、イシハラさんにご馳走をする約束したでしょう。

シマ しましたけど。

警察官 特定取得行為は、犯罪行為に至らない場合でも、社会通念上容認できない行為は、だめなんです。

シマ えーそんな、じゃ、取材なんて怖くてできないよ。

イシハラ 僕も、怖くて公務員やってられないよ。

第4幕 原子力保安院幹部の部屋

エチゴ 今、イシハラとかわら版屋のシマを取り押さえました。これで、かわら版もすれすまい。

ナカモト 御苦労、御苦労。まこと、秘密保全法とは、我らにとって、便利な法度じゃ。のう、エチゴ。ふおふおふおふお。